
そして少女は紅く染まる

白夜叉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして少女は紅く染まる

【Nコード】

N7309D

【作者名】

白夜叉

【あらすじ】

時は戦国時代。戦で最愛の人を失った青年のお話…感動して涙を流してくれるとうれしい…

時は戦国時代

侍達はお国の為に戦う。

そんな血生臭い時代でのお話…

「煉！見てみて 雪積もってる！」

「なに？」

「だーからー雪だつて！」

「ああ…雪ね…それにしても華恋かれんやけに元気だね」

「ん？そう？」

「うん」

「でもさ…この雪が積もっても私達の血で真っ赤になっちゃうんだね」

「しょうがないでしょ。僕らは国の為に戦わなくちゃいけない」

僕の幼なじみの華恋は女の身で有りながら、男だらけのなか国の為に命を賭けた、数少ない女侍。僕はそんな華恋に淡い恋心を抱いている

キラキラ輝く銀色の艶やかな髪…髪と同様、銀色の瞳をした大人っぽい顔立ちの少女…それが華恋…

「おい。華恋、煉、相手国が来たらしい」

「え！？マジ！！」

「…今日も頑張らないと…」

「行くよ！煉！せいぜい死なないようにね！！」

「華恋こそ」

「じゃ！また後で！」

「ん」

こうして僕らは別々の方向に向かって行った……

今思えば

華恋と同じ所に居たら良かったんだ

「華恋？？おい！」

顔や刀に沢山の赤黒い血を付けながら華恋を捜す。いつもなら、僕の背後に回り込んで、だれーだ！と言う声と共に両目を小さな掌で隠してくる。

しかし、今日はそれがなかった……

「もしかして……」

僕はそんな不安を抱きながら、華恋を捜し続けた。

「先に帰ったのかもな」

そう思い、寺に戻ろうとした所、右端の方に鮮やかに輝く銀色を見つけた。

「……華恋……！」

それは、僕の捜していた華恋だった。華恋は血だらけだった。白く透き通る様に美しい肌は傷だらけで傷口からは大量に血が流れ出し

ていて、顔は青白くぐったりしている。

「華恋！！華恋！！！」

死んでほしくない……

まだ…想いも告げてない…

僕の脳にはそんな事しか浮かんでこなかった。
いつしか僕は彼女を抱きしめていた。

「れ…ん…」

「…！！華恋！！」

華恋は僕の背中に手を回して、こう続けた。

「れ、ん…ごめ…殺られ…ちゃ、った…」

「華恋！！やだよ！死なないで！」

「…たし…も、死に…たくな…いつ…」

「…！！」

初めて見た華恋の涙は頬を伝い、僕の腕を濡らした。

「華…」

「でも、ね…煉…わた、し、も…ダメかも…しれない…」っ！！そんな事言っな！」

華恋は急に声を張り上げた僕をジッと見ている。

そして、僕の手を握って、あった…かい、と呟いた。華恋の小さな手はヒンヤリと冷たかった。

「っ！！華恋…」

「れん…泣いて…るの…？」

それがたまらなくて、華恋を強く、強く抱きしめた。

「煉…わ、たし…ね…れ、んが…好、き…大、好き」

「華恋…」

僕も…と続けようとしたら

「ガハッ！！」

「華恋！！？」

華恋が口から血を吐き出した。

「も、ちょ…っと、一緒に…居たか…た……」

「……」

華恋はそう言っているとヒンヤリしている両手で僕の両頬を覆った。

「れ、ん…ごめ…死ん…で…ご…め……！っん」

僕は華恋の言葉を最後まで聞かず、ゆっくり顔を近付けて口を塞いだ。

「…れ…ん…愛して…るよ…煉…れ…ん…れ………」

華恋はそう言っているとピクリとも動かなくなった。

「…華恋？うそ…だよな？華恋！！華恋！！一緒に居たいって！戦が終わるまで一緒に戦おうって！！…言っただでしょ…？」

何度も呼び掛けても返事は帰って来ないとわかっていても、僕は彼女の名前を呼び続けた。

「…嘘付いてんでしょ？起きなよ………華恋…死ぬ時は一緒に言っただよな？」

すると、華恋の閉じられた双眼から涙が一つ零れ落ちた。まるで、ごめん。と言っているようだった。

華恋が涙を零した途端、空が僕達を見て沢山、涙を流した様に雨が降って来た。

降り続く雨の中、僕は最愛の侍…いや恋人を亡くした………

・・・それから3年、戦は終わり、僕も平凡な生活を送っていた。

「華恋…誕生日おめでとう…」

チャリツと華恋のお墓にネックレスを置いた。

「華恋…愛してるよ…」

（煉…私も、愛してる…）

「華恋!？」

僕は華恋の声をした方を見ると、一瞬、ハートのネックレスをした華恋が満面の笑顔で立っていたのが見えた。

そして…

（ありがとう…煉…大好き）

「華恋…」

桜が舞っている中、僕は空を見上げそつと…微笑んだ……

E
N
D

（後書き）

ここまで読んでくれてどうもです　よかったら、感想とか下さい！
泣いて喜びます　　十白夜叉十

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7309d/>

そして少女は紅く染まる

2010年12月26日02時16分発行